

MIKIO HOSHIDO GUITAR RECITAL

# 芳 志 戸 幹 雄

ギター・リサイタル



1976年11月27日(土) 6:30p.m. 石橋メモリアルホール

マネージメント

高柳音楽事務所

## 木目を読む。

木には木目があります。木目には、表情があります。光や気温、雨、土壌。さまざまな自然が、さまざまな働きあい、その木に特有の表情を与えるのです。働きあい、その木に特有の表情を与えるのです。働きあい、その木に特有の表情を与えるのです。

高級手打ギターともなると、これらの条件はさらにさらに厳しくなります。美しい音のための素材は、やはり美しくなくてはならない。だからなのです。これもまた、音と人間との永い歴史のなかから生まれた、ひとつの結論。

ヤマハのギター工芸家たちは、木目を読むことにかけても名人です。腕を振るう以上、相応の素材をもとめます。いつか、あなたがヤマハ・グランドコンサートギターを手にするとき、きこいと驚かれる。そして、その

たぐい稀れなる端正な顔つき。



グランドコンサートギター  
カスタムシリーズ ¥300,000  
GC 10M, 165 ¥100,000  
GC 15M, 155 ¥150,000  
GC 20M, 205 ¥200,000  
YAMAHA  
日本楽器製造株式会社

芳志戸幹雄 ギター・リサイタル

—スペイン近代のタペー—

**MIKIO HOSHIDO GUITAR RECITAL**

11月27日(土) 6時30分開演

Sat., November 27th 6:30 p.m. Ishibashi Memorial Hall

お問い合わせ ● 高柳音楽事務所 TEL. 333-2242 協賛 ● 全日空

自由席 ¥1,800

11/27 開演  
6:00 開演  
6:30 開演

TEL. 843-3043

## PROGRAMME

ドビュッシー讃歌 ..... フェリャ

コムポステラ組曲 ..... モムポー

唄と踊り第1番 ..... ビポー

~~~~~ 休 け い ~~~~~

ペテネーラ ..... レヒーノ・サインス・デ・ラ・マーサ

ロンデーニャ

マラゲーニャ op.165 ..... アルベニス

アストゥリアス

フェリャ讃歌 祈禱と舞踏 ..... ロドリゴ

## プログラム解説

芳志戸 幹雄

### ドビュッシー讃歌/フェリャ

スペインの近代音楽の中で、フェリャはやはり一つの頂点といえよう。

このドビュッシー讃歌は、フェリャの作品の中で、唯一のギターのためのオリジナルでありながら、私達ギタリストにとって誠に大切な小品である。こうした水準のギターのための作品をフェリャがもっともっと書いてくれたら、と現在もおギタリストがほやくのも、無理からぬことであろう。

この作品は、フェリャが敬愛したドビュッシーの死への、彼の激しい慟哭、と私には聴こえる。

### コムポステラ組曲/モムポー

スペイン北部、ガリシア地方の小都市、サンティアゴ・デ・コムポステラは、かつて近くの海辺に聖ヤコブの遺体があがり、それをこの地に大教会を建立して祭ったところから、この大教会はスペインの守護神的役割を果たし、また、ヨーロッパ唯一のメッカとして知られる。

この町の潤沢な風物を唄い、そしてその古い歴史を讃え、ギターの大匠、アンドレス・セゴビアに捧げたのが、この組

曲である。

この町では毎年夏の終わりに MUSICA EN COMPOSTELA と呼ばれる国際講習会が開かれ、作曲科はこのモムポーが教鞭をとり、また、ギター科はセゴビアが主任教授としてあっている。

1968年69年と2年続けて私もこの講習会に参加したのだが、この曲を奏く度に、また、聴く度に、その町での2回の夏を強く思い出さずにはいられない。

描写的なプレリュード、中世風なコーラル、ささやくような子守唄、街の片隅から聴こえてくるかと思われるレンタテイーボ、古いメロディーのカンシオン、今も踊り継がれるムニエーラの6曲よりなる。

### 唄と踊り第一番/ビポー

先日、ピアニストとして初来日したビポーと話す機会を持った折、日本でもぜひぶん貴方の作品は好かれている、というのと、即座に唄と踊り第一番だろう、とニヤッとした。

この作品は、楽しめる小品として本当にポピュラーなギターのリポートリーとして定着した。

ビポーは少年時代からイエベスの親友で、この作品をイエベスのために書いた時は、18才だったそうである。

もちろん、この作品を書いて大部年月が経っているから現在のビポーの作風とは大きく違いますが、「唄」にみる和声処

理等は、当時の若かりしビポーの才気をなかなか感じさせるものがある。

ベテネーラ/  
ロンデーニャ/  
レヒーノ・サインス・デ・ラ・マーサ

スペインのギタリストで、フラメンコを素材としてギター曲を書いた人は多いが、デ・ラ・マーサ兄弟はその中でも、最もそれに成功している人達ではないだろうか。

兄レヒーノ、弟エドアルド共にギターの為の数多くの美しい小品を書いており、特に作曲ではエドアルドの方が力を入れておるようで、このベテネーラとロンデーニャを書いたレヒーノは、むしろマドリッド国立音楽院の主任教授を永く務めたことにより、また、セゴビアとならぶ今世紀の巨匠として、名高く、日本にも1967年に来日している。

ベテネーラ、ロンデーニャ共に、フラメンコが素材であるが、その持つ独特のリズム、メロディー等、見事に、ギター独奏曲として曲の中に定着させている。

マラゲーニャ OP 165

アストゥリアス/アルベニス

二曲共、原曲がピアノ曲であることは周知のことであろう。

アルベニスがピアノにのみ作曲する際に、多くの場合、ギターの響きが頭の中にあっただけで、ピアノ曲からの編曲で

ありながら、グラナドスと並び、数多くの作品がギターで愛奏されている。

マラゲーニャ OP 165 は、ホセ・トマス編曲、アストゥリアスは、ピアノの原曲のニュアンスを損わずに、と思いつつ、私が編曲してみた。

フェリヤ讃歌 祈禱と舞踏/ロドリゴ

ロドリゴのギターの為の作品には、技巧的に非常に難易度の高いものが少なく見受けられる。有名な二つの協奏曲もそうであるし、また、独奏曲ではこの作品もその一つであろう。

そしてロドリゴの場合、その難かしさを克服することにより、誠に独特な音の世界が広がる。これは当然のことであろうが、しかしギターを知らない近代の作曲家が書いたギター曲の中に、相当数、難かしさを克服することが、音楽のより一層の拡がりにつながらないものを見受ける時は、ロドリゴに改めて脱帽したくなる。

この作品は、かつてパリ国際コンクールで受賞、1963年に、ボルドー5月音楽祭においてアリリオ・ディアスによって初演された。

副題として、今夜のコンサートの一曲目の作者、マヌエル・デ・フェリヤへの讃歌となっている。

芳志戸 幹雄 略歴

1947年生れ。

ギターを三木理雄、小原安正に、理論、ピアノ、ソルフェージュを林芳輝に師事す。来日した、イエベス、トーマス、デ・ラ・マーサにレッスンを受ける。上智大学に在学するかたわら、研鑽をつみ、1968年デビュー・リサイタルを開く。同年渡欧、スペイン政府招待生として、8月サンチャゴで開かれた国際音楽講習会に出席し、ギター科マスター・クラスに入り、アンドレ・セゴビアに師事する。後、マドリッド国立音楽院に学ぶかたわら、デ・ラ・マーサに師事。翌年、アリカンテにおいて、J・トーマスに師事し、

各地にてリサイタルを開く。8月、再び、政府招待生としてサンチャゴの国際音楽講習会に出席。10月イタリア、アレキサンドリアで開かれた国際ギター講習会にて、アリリオ・ディアスに師事。最優秀生として7万リラの賞金を得て、講習会の最終日に代表でリサイタルを開く。そして11月から12月にかけてイタリア各地にてリサイタルを開き、またラジオ、テレビに出演。1970年に帰国後、全国でリサイタル、オーケストラとの協演、またラジオ、テレビで活躍している。1976年4月からNHK TV「ギターを弾こう」の講師をつとめている。

ギター界の寵児・芳志戸幹雄がギター音楽に新風をふきかけた快演！  
NHK・TV「ギターを弾こう」の講師として活躍

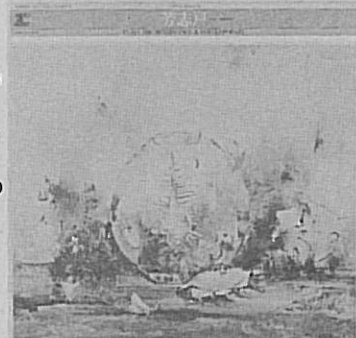
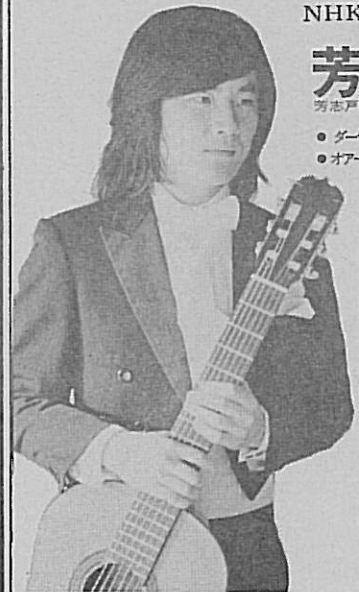
## 芳志戸 / ギター・リサイタル

芳志戸幹雄：ギター・ソロ

- グラント：2つのカリヤルダ ● ムダラ：ファンタジア ● イタリア：ルネッサンスの2つの舞曲
- オアナ：ティエント ● フェリア：ドビュッシーの墓に捧ぐ ● フロアー：4つのエチュード 他

30cm STEREO LP  
● ALC-1044 ¥ 2,500

11月下旬発売予定  
2TR30cm TAPE  
● ALT-40 ¥ 15,000



AUDIO  
LAB.

株式会社 オーディオ・ラボ  
東京都渋谷区千駄ヶ谷2の34ルソレイユ201  
☎(03)408-1650・4748 〒151